

連携協働通信 「架け橋」

令和7年10月日

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO. 46

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html>

名瀬小学校 学校運営協議会 視察報告

7月23日（水）に、戸塚区の名瀬小学校で学校運営協議会が開催されました。名瀬小学校の学校運営協議会は平成26年に立ち上りました。教職員と地域や保護者等で構成されている学校運営協議会委員が熟議の場を設けるとのことで、学校支援・地域連携課もオブザーバーとして参加させていただきました。

はじめに名瀬小学校の宮崎校長から、「創立51年を迎えた名瀬小学校では、地域とともにある学校づくりをこれからも目指して、特色ある教育活動を大切にしていくとともに、地域の様々な資源を活かして取り組んでいきたい。教育活動において地域の材が豊富で、地域の方々もとても協力的である。今年度から、地域学校協働本部が発足した。学校・地域コーディネーターが中心となりオーダーシートなどを活用しながら、学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となり、学校を支えていただいている。地域の資源が豊富である名瀬小学校の強みを活かして、社会に開かれた学校の実現に向け学校と地域と一緒に進めていきたい。」とのお話がありました。



協議会の熟議は、「特色ある学校づくりに向けて～51年目の新たな出発、地域と共に育てる名瀬っ子～」というテーマのもと5グループに分かれて実施されました。各グループでは、以下をはじめとして様々な話が展開されました。

- 「51周年を迎えて、地域とのつながりが川の清掃やスポーツを通した活動などの様々な場面で行われている。日々の活動を地域の方々に支えていただいていることを改めて感じた。」
- 「里山の学習において教科や単元とのつながりを考えて提案していただいている。学校もどのように教科や単元で活用するか、マネジメントを計画的に行っていくことが必要。」
- 「名瀬っ子のよさは人なつっこさであり、これはペア学年の取組をずっとやっていることが大きい。この動きが地域の活動へとつながり、子どもたちが大きくなったときに「名瀬のまち」が好きだと言つてくれると嬉しい。」
- 「昔は地域が自由に入れる環境があったが防犯面などから入りづらく、連携がとりにくく感じる人も地域の方の中にいることも課題としてあるのではないか。」
- 「地域学校協働本部は保護者と学校をつなぐ大切な存在だということがわかった。持続できる活動にしていくためにどうすればよいか一緒に考えていきたい。」



協議会では、多くの参加者が子どもたちの笑顔を中心に、自分事として話をしていたのが印象的でした。今回の協議会には、上菅田笠の丘小学校の世古校長が講師として参加し、名瀬小学校の協議会のもちかたのよさ、地域と学校の連携・協働の大切さ、学校運営協議会の今後のあり方についてお話をありました。教育委員会事務局からも、昨年度からの形を継続しつつ、アクションもできてきている。地域の方の視点での学校の見え方は伝わっている。学校側はこれからも発信を続けていくことで、運営協議会後もよい関係が続していく。という話をさせていただきました。今回の名瀬小学校の取組は、教職員と協議会委員が熟議の場をもつという形でしたが、同じような取組を行っている学校もあると思います。

今回の名瀬小学校の取組を参考にして、多くの学校により充実した学校運営協議会が広がるよう、教育委員会事務局としても発信を続けていきたいと思います。

第3回 学校・地域コーディネーター養成講座 報告

9月8日（月）に、第3回学校・地域コーディネーター養成講座を実施しました。

今回は、はじめに「地域学校協働本部の委託料」について、お伝えしました。大切なこととして、

- ・委託料の管理については、適正に執行管理をする必要があること。
- ・学校や関係者、活動に関わる方々と意見交換しながら活動計画を立て、予算執行をしていくこと。

などを説明しました。

次に、地域社会や企業等と連携した教育活動を通して、資質・能力を育成し、各校の教育課程における自分づくり（キャリア）教育の充実を図ることを目的とした「はまっ子未来カンパニープロジェクト」について、学校経営支援課より説明しました。



「はまっ子未来カンパニープロジェクト」で目指す資質・能力は、次の2点です。

- ①「チャレンジ精神・実行力・協働性・創造性・リーダーシップ」（起業家精神に係る資質・能力）
 - ②自分自身も持続可能な社会の創り手であることに気付き、社会参画しようとする態度

①に関しては、「起業家」になる人を育てるのではなく、あくまでも「起業家精神」に係る資質・能力を育成するということ、②に関しては、「参加」ではなく「参画」する、計画の段階から関わっていくことが大切であることが伝えられました。

各学校が「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に取り組むにあたり、学校が自主的に連携機関を見付けることを基本としています。ただし、学校で連携機関を見付けられない場合や連携機関の紹介を希望する場合は、「自校の学校・地域コーディネーターに相談すること」、「これまでの連携機関等を参考にすること」を周知しています。企業等とのマッチングについての例や最近多い『材』についてのお話もいただきました。

その後、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」についての概要を知ったところで、事例演習を行いました。



○ ○ ○
みなさんのもとへ、学校から
以下のような相談がきたらどうし
ますか？



「アプリケーションを活用した地域の活性化を目的とした学習計画を立てました。アプリの開発・作成を目的とした企業を紹介していただきたい。」

「地域の課題を考え、地域産業の活性化や食品ロスに目を向けて学習を進めたく、メニュー開発や販売等ができる飲食店はないか。」

「草木染や藍染めについて学ぶことができる外部機関を紹介してほしい。」

「『GREEN×EXPO2027』に関連した企業等と連携して学習を進めていきたい。」

「生活科『まちたんけん』で、地域のおすすめスポットなどを紹介してほしい。計画の段階から、参加してほしい。」

「閉学期間中に、学校で飼育しているウサギの面倒を見てくださる方を探していただきたい。」

「『自分たちの住む地域の課題解決について』考えることができるような学習を行いたい。話をしてくれる人材を探してほしい。」

「町の活性化や地域同士でのつながりを増やしていくために、お祭り（イベント）を計画・実践したい…。」

「身近な自然環境や環境問題、環境保全について学びたい。『竹』を材にして、ものづくりを通してそういった問題にせまっていきたい。」

実際に学校から上記のような依頼があった場合、どのように対応するかを具体的に考えてきました。
「依頼内容を受けて確認するべきことは何か」について各グループで話し合う中では、相談・依頼内容により多少異なるものの、以下のようなものが挙げられました。

- ・目的、ねらいは何か？
- ・対象の学年、学級は？
- ・教科等は？
- ・最終的なゴールは？
- ・時期は、いつからスタートしていつまで実施するのか？
- ・（依頼内容により）体験の有無は？
- ・予算は？
- ・ボランティアは必要か？
- ・人数は？
- など・・・

上記の確認事項をもとに、グループごとに学校・地域コーディネーターとして提案可能な事項を挙げていきました。どのグループでも、活発な協議が行われていました。

最後に教育委員会事務局からは、学校・地域コーディネーターとして活動していくにあたって先生と一緒に子どもたちの力をつけたいという思いを大事にしてほしい。「何のためにやるのか。」を大切な視点としてもち、活動あって学びなしにならないように、学校とのコミュニケーションを密にしながら取組を進めていくことが大切であるということを確認してきました。



研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

- ・全てボランティアだけに頼らずに委託金があるということが分かり、活動の幅も広がるのではと思いました。
- ・委託料について、先輩コーディネーターから少し聞いていたが、国からの補助金を活用しているのは知らなかった。知れてよかったです。大切に使わなくてはと思った。
- ・学校の目的と地域でできることを子どもたちの興味をより深められるように、コーディネーターができるることを調整していくように、より学びを深めたい。
- ・子どもたちの育成とともに地域に根差した取り組みを学校と地域とが連携して取り組んでいくことの大切さを知りました。
- ・キャリア推進のために行われていることがわかり、今後協力できればいいなと思いました。
- ・他の人の意見を聞くこと、自分のもっている情報を共有できたことがとてもよかったです。学びになりました。
- ・外部の方とのつなぎ役としてコーディネーターが必要だということ。学校の先生だけでは限界がある内容を手助けしていければと思った。
- ・ただやりたいことだけでなく、何のために、何を学んでほしくてやるのか目的によって内容が全く変わってくるため、そのすり合わせを必ず最初にしておくことが大切だと分かった。
- ・様々な相談について、自分の受けた相談と照らし合わせながら考えることができました。具体的に考えることができ、今後につなげることができると感じました。
- ・グループワークが盛り上りました。話し合う時間がしっかりとあつたり、意見をうかがったりという時間があったのでよい結論へたどりつけました。



第4回 学校・地域コーディネーター養成講座 報告

第4回学校・地域コーディネーター養成講座は、方面別に4日間開催しました（10月2日北部、3日東部、7日南部、9日西部）。講師として、横浜市学校・地域コーディネーター連絡会 高橋 由美子様、ファシリテーターとして、参画はぐくみ工房代表 竹迫 和代様をお招きし、ワークショップ形式の研修を行いました。



今回の研修では、

- ・学校・地域コーディネーターのイメージを共有し、自分がどんなコーディネーターになりたいのか探る。
- ・学校・地域コーディネーターの魅力や課題が短時間で聴き手に伝わり、かつ聴き手を引き込むプレゼンテーションのコツを学ぶ。

を目的として行いました。



まずは、各自がコーディネーターとしての思い（日ごろ感じていること・コーディネーターとしての魅力や不安）などを書き出し、それをもとに詩を作りました。そして、その詩をグループで聞き合い、コーディネーターとして伝えたいテーマを探りました。

次がいよいよ、本日のメインの「CMづくり」。コーディネーターの活動の魅力や課題について協力してCMに見立てて30秒～1分間で発表をします。説明が終わると、すぐに練習を始めるグループ。悩みながらじっくり話し合うグループ…。それぞれ、協力をしながら進めていました。

いよいよ発表の時間。見ている側が思わず頷いてしまう「あるある」な内容や目指すコーディネーター像を様々な形で表現し、どのグループも工夫を凝らした演出でした。見ている方からは拍手や笑い、感嘆の声などの反応があり盛り上がりいました。

最後に、「自分が目指したいコーディネーター像」をうちわに書いて宣言しました。今後の各校での活動に繋げていただければと思います。



研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

- ・同じような悩みや不安をみなさんお持ちで、でもみんなで楽しくがんばりたい！という思いは一緒だった。気持ちがプラスに向いた。
- ・CM作り楽しかったです。CMを作るのに話し合い、意見の交換などでグループ内が楽しくなれたことは、この先の活動にも繋がっていくのだと思いました。
- ・養成講座も終わりに近づき、気持ちもまとまってきた。とてもためになりました。
- ・CMを作るなど、コーディネーターのことがよくわかる内容でした。じぶんの理解をもっと深めていきたいです。
- ・コーディネーターとして学校と関わった自分の気持ちから改めてやれることが知れた。「子どもたちの笑顔が見たい」という気持ちを大事に関わっていきたい。

今年度の研修のお知らせ

方面別 学校・地域コーディネーター研修・交流会②

学校・地域コーディネーターを対象に、今年度2回目の研修及び交流会を方面別に日時を設定して開催します。なお、1回目に実施した研修・交流会と内容は異なります。ぜひ、ご参加ください。

日時及び会場（今年度2回目の実施）

	日にち	研修開始時刻	方面	会場
1	11月13日（木）	【午前の部】 9：30～	北部 西部	花咲研修室
2		【午後の部】 14：30～	東部 南部	

※方面別に時間を設定していますが、ご都合が悪い場合は他の方面の会に参加していただくことも可能です。

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修

教職員を対象に研修を行います。

教職員の方々にも地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。

ぜひ、地域連携の担当教職員など対象者への周知をお願いいたします。

※本研修は教職員育成課の研修と兼ねています。

1 日時及び会場

	日にち	研修開始時刻	会 場
1	12月 4日 (木)	15:00~	花咲研修室
2	12月 12日 (金)		

2 内 容 ○認定NPO法人こまちぶらす理事長 森 祐美子 氏の講義を予定しています。

○グループワーク

※詳細は、今後発出します通知でご確認ください。

学校運営協議会の設置について（学校向け情報）

現在の学校運営協議会の設置校数は令和7年10月現在で502校になっております。今年度、様々な事情により設置ができなかった学校においては来年度の4月の設置に向けて2月中旬までに書類と名簿の提出をお願いいたします。

また、現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、または複数校から単独での協議会に切り替える場合の申請についても、同じく2月中旬までに書類と名簿の提出をお願いいたします。

地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用など様々な部分において、まだ時間が必要だという学校においては、設置に向けての相談や地域の方や委員になられる方への説明などを当課にて行うことが可能です。その場合は、ぜひご相談をいただければと考えておりますので、ご連絡をいただけたとありがたいです。引き続き、よろしくお願ひいたします。

学校運営協議会の令和8年4月設置について

	学校運営協議会 設置の機会
設置日	令和8年4月1日
申請書提出 締切日	令和8年2月中旬

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、以下の点にご注意ください。

①合同で立ち上げるまでの間、単独での学校運営協議会の設置校であり続けます。

②合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要だと考えます。

③協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

令和8年度 学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置も継続して進めています。

令和7年度も101校の学校から140名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。学校として初めての学校・地域コーディネーターが推薦されたのは、そのうち4校でした。

現在横浜市では470校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要で、学校長の推薦を受けた方に、年間5回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦のご準備を進めていただけたとありがたいです。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。推薦は、令和8年3月中旬より開始予定です。推薦をもって6月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座が受講可能となります。どうぞよろしくお願ひいたします。

何かお困りのことがありましたら、いつでもご相談ください。

学校支援・地域連携課 671-3278